

関西テック・クリエイター・チャレンジ

Web3コース

大阪公立大学 大学院 情報学研究科 学際情報学専攻 1 年
高藏 駿之

プロジェクト名

ブロックチェーンを用いたチケット管理システム

背景

- 近年、チケットの**不正転売**が増加
 - 高額転売など
- 本来なら利益がアーティストに届くはずが届かない
- 不正転売に対してさまざまな対応が取られている
 - さまざまなアーティスト、団体、イベントが転売反対に賛同する意見広告を掲示 (2016)
 - チケット不正転売禁止法 (2018年12月14日公布 2019年6月14日施行)
 - それ以前は「ダフ屋行為」を条例で取り締まっていた

しかし、転売は現状、無くなっていない

理由

転売チケットでイベントに入場できるから

反対意見

名前が印刷されている

- 保険証などの本人確認書類の貸し借りで突破 (法律で禁止されている)

本人確認を行なっている

- 厳格にしているところは数少ない
- 顔写真付きでないものでも可能

解決策

厳格に本人確認ができるシステム

チケットに書いてある名前と入場者が一致することを確認するシステムを作る

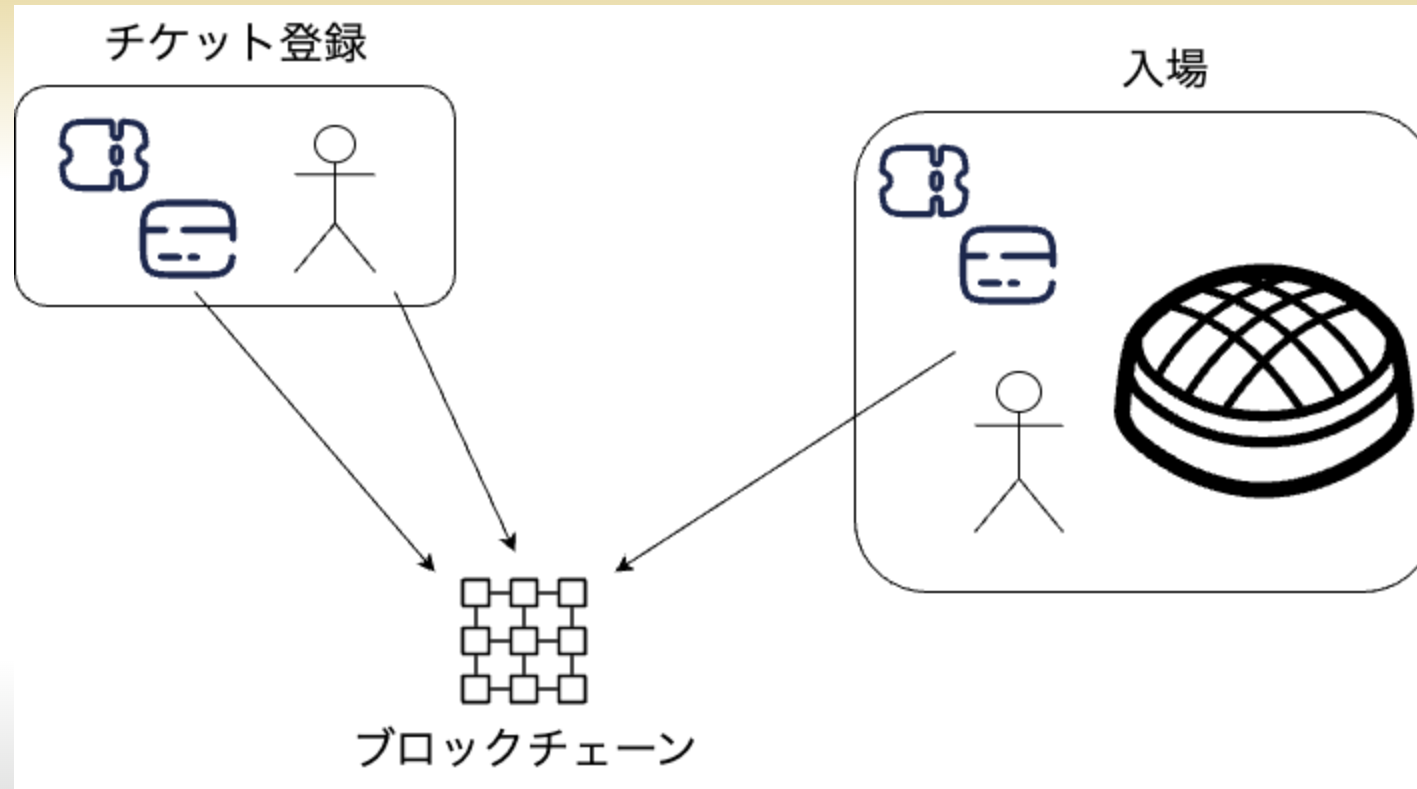
内容

本人確認書類として偽造ができないもの：**マイナンバーカード**を使用

マイナンバーカードでしか取り出せない情報を使い
チケットの購入時と入場時にチェックする

その情報はブロックチェーン上に暗号化して保存し
情報の永続化・対改ざん化を実現

概略図



チケットの整理番号・販売元、購入者の情報を事前に保存
入場時に保存した情報とカードの照合によって本人確認を行う

システムの利点

- チケットの発行元・イベントに依存しないシステム
 - **全てのイベントに使用できる**
- 漏れのない本人確認を実現できる
 - 世に普及すれば転売は**格段に減る**

これで解決！

これで解決！ 、、、とはいかない

転売の目的

- 金銭目的
- 個人情報不正取得
- 詐欺

転売の目的

- 金銭目的
 - 個人情報の不正取得
 - 詐欺
- 都合などのよって行けなくなったチケットを譲る
 - チケットが重複して当たってしまった

この層に対しても対処をしなければならない

違法ではない転売を実現する必要がある

つまり、「公正公平にチケットを流通させるシステム」

NFTを使ったチケット販売システム

販売システムの利点

- NFTで持ち主を確定できる
- 不正利用ができない
- NFTは譲渡を基本機能として設計されているため、譲渡しやすい
- さらに、NFTは永遠に唯一無二のものとしても扱うことができる

NFTを使ったチケットの利点

- 入場済みチケットを無くさずに持っておける
- さらにNFTを使った二次産業もできる
 - 入場特典、参加者限定サイト、限定割引
- コンサートだけでなく
周りの業界をも活性化させることができる可能性を秘めている

提案システム

本人確認システム

本人確認をブロックチェーンを使い、情報を安全に保持し、より厳格に行うシステム

チケット販売システム

NFTのよるチケットによって、簡単に安全に譲渡ができるシステム

最後に

- システムを提案して開発を行ってきたが、全てが満足のいく出来ではありません
- これだけ大掛かりなシステムを数ヶ月で作ることがどれほど難しいかを実感
- また、個人的に将来は博士課程へ進学することを考えているので、これからの課題として担っていく

もし、協力したい、力になりたいなどがあればご連絡いただければと思います

query@g-ticket-c.com

